
16歳の誕生日に

なみき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

16歳の誕生日に

【Nコード】

N5209R

【作者名】

なみき

【あらすじ】

16歳の誕生日を迎えた主人公の織崎紘志^{おりだきひろし}。この世界には話題になっっている『16歳の誕生日』と言う一冊の本がある。その本の内容は主人公の興味をそそるような内容だった。しかし、その本の内容は一つの伝説になろうとしていた。『16歳の誕生日の次の朝。目が覚めると背中に黒い翼が生えている。』本と似た内容が主人公を困らせる。これは運命なのだろうか。神様が与えた罰なのか、それともあの本が与えた……幸運なのか。悪魔のような天使たちが世界を救う物語。

プロローグ

「お誕生日おめでとう!!」

「ありがとう。」

今日は俺、織崎紘志おりきまひろしの16歳の誕生日。

誕生日と言っても生まれた時間は午後10時5分。

今の時間は午後8時前だ。あと、2時間以上もある。

まあ、そんなことはさておき。

この世界でひそかに話題になっている本が俺の興味をそそるようなものだった。

その話題のほんの題名が『16歳の誕生日』という。

その内容はこういうものだった。

『16歳の誕生日の次の朝、目が覚めると自分の背中に黒い翼が生えていた。

驚いた主人公は走って両親の居るリビングに向ったが、両親の姿に主人公はまた驚かされた。

両親は主人公とは違う白い翼が生えていたのだ。

しかし、母親の翼は父の翼よりも少し小さかった。

主人公は両親に「その……白い翼……どうしたんだ？」と問いかける。

両親は「何を言っているんだ？何も翼なんて生えてないぞ？」と笑って答えた。

「俺に……黒い翼……はえてるか？」と主人公が問いかけると、

「お前に翼なんてないぞ。さつきから何を言っているんだ？」と父親が答える。

主人公には見えても両親には「翼」なんてものは見えない。

主人公は学校に行くために家の外にでた。

そこには……白い翼の生えた人たちがいつもの通りに日常生活をすごしていたのだ。

主人公は怖くなり学校まで走っていった。だが、走っていても無駄だった。

学校の全員の背中に「白い翼」が生えていたのだ。それも、大きさはばらばらで。

友達にも両親と同じ質問をしたが、答えは両親と同じ。

この世界は夢なのだろうかと主人公は思った。

主人公は学校の帰り道で自分と同じ黒い翼を持った一人の女の人を見つけた。

その女の人を追いかけたが、人の通りが多く女の人を呼び止めることはできなかった。』

という内容だ。つとんでもこの話にはまだ続きがあるらしい。

俺の友達がこの本を買って読んだらしいから、最初のほうを聞いて知っただけだ。

買えよと思うかも知れないが、この不況なかではそんな本を簡単に買うことはできない。

だから買わないだけ。どうせ売るだろうしな。

友達に内容を聞いたとき、俺は結構面白そうな本だな〜と思ったな。まあ、こんなことが本当に起こったらマジでパニくると思う。

主人公は冷静なほうだと俺は思う。

俺だったら普通に学校になんて行けない。家に引きこもるよ。

しかし、これは一つの伝説として残ろうとしている。

実際にこのようなことが起こったららしいのだ。

それも、1回どころじゃない。2回も3回もだ。

今はもう調べてはいないらしいのだが、この世界にはもう何万人も居るといわれている。

明日の朝、俺の運命が決まる。

何万人の中に入るのか。それとも、何も無かったように日々が過ぎていくのだろうか。

そんなことを思いながら俺は眠りにつく。

リビングで後片付けをしている母親の音が聞こえ、

隣の部屋でテレビを見ている父親の笑い声が聞こえる普通の生活。

こんなにも普通で、当たり前な日常を怖いと思うようになる、俺。

話題の本なんて……友達に聞かなければよかった。

興味なんて持たなければよかった。

毎日が、こんなにも……こんなにも大きく変わってしまうなんて。

神様が与えた罰なのか、それともあの本が与えた……

幸運なのか……

今、悪魔のような天使が世界を救います。

あなたに黒い翼は生えていますか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5209r/>

16歳の誕生日に

2011年10月7日18時00分発行